

脱コモディティ技術の創出

執行役専務

東 実



2005年の世界マクロ経済を振り返りますと、米国は好調を持続し、中国・アジア地域は高い成長を維持しており、日本も回復基調に向かうなど全世界的に堅調な成長を遂げました。東芝も数年にわたった構造改革から成長路線へと軸足を移した年でした。一方、デジタル化の急速な浸透は業界の参入障壁を一段と低くし、生産拠点のグローバル化との相乗効果によるデジタル製品のコモディティ化が促進され、予測以上の価格下落を招いております。その結果、現状では、市場で売れ続けるのはほんとうに特長ある技術を持つ商品のみで、新技術を継続的に生み出せるかどうか企業が業績を大きく左右するようになってきております。コモディティ化の波から脱するという意志を込めて、“脱コモディティ技術の創出”を東芝グループの技術スローガンに掲げ、当社が世界のフロントランナーとして社会の持続的な発展に貢献していきたいと思っております。

2005年は東芝の創業130周年にあたり、“驚きと感動”、“快適”、“安心と安全”という三つのコンセプトを掲げ新しい商品を提供してきました。今回の技術成果号では、このコンセプトに“新機能素子・材料／生産技術”という基盤技術を加え、これらに関する技術と商品を掲載しております。

2005年の技術成果のポイントは、以下のとおりです。

“驚きと感動”では、新開発の映像処理システム“メタブレイン・プロ™”を開発し高精細デジタル画像を実現したフルHD (High Definition) 規格のデジタルハイビジョン液晶テレビと高精細画像の再生に適したHD DVD プレーヤ、世界で初めて商品化した垂直磁気記録方式HDD (ハードディスク装置)、テレビ機能とHDD&DVD機能など四つの機能が楽しめるAVノートパソコンQosmio、第3世代サービス対応や音楽プレーヤなどの機能を追求した携帯電話、複数の映像データを同時にリアルタイム処理できるマルチコアプロセッサCellや大容量ストレージデバイスとして応用が広がるNAND型フラッシュメモリなどを製品化しました。“快適”では、400Lクラスの設置スペースに置ける450L高容積冷蔵庫、高磁力希土類磁石採用S-DDエンジン™搭載の低騒音・省エネ洗濯乾燥機、愛知万博にも展示した生活支援ロボットなどを開発しました。また、“安心と安全”では、効率99.19% (工場試験結果)の大容量水素ガス間接冷却発電機、地上デジタル放送ワンセグ放送用H.264エンコーダ、最新の通信プロトコルであるSIP (Session Initiation Protocol) を用いて12,000台の電話機を収容したIP (Internet Protocol) ネットワーク電話システム、医用機器分野の全身用X線CT (Computed Tomography) 診断装置とX線循環器診断システムなど、高度の技術と信頼性の高い製品を実用化しました。更に、“新機能素子・材料／生産技術”では、ナノサイズの新負極材料を用いた1分間で充電できる高出力電池、独自組成のハーフホイスラー型熱電材料を用いた高出力熱電モジュールなどの基盤技術を開発しました。

以上、未来を見据えた東芝グループの技術開発の状況と成果の一端を紹介いたしましたが、ぜひ本文をご一読いただき、皆さまのご助言、ご指導をいただければ幸いです。